

中学地理プリント (過去問類似)

日本の資源と産業

名前

得点

/8

問1 苫小牧港の主要貨物に関する調査において、輸出貨物の第1位が紙・パルプであり、輸入貨物の第2位が木材チップであるという結果が得られました。この統計結果から考察できる、苫小牧市の工業の成り立ちとして最も適切な説明を選びなさい。(2023年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 広大な森林資源を背景とした製紙業が発達しており、不足する原料を海外から補い、製品を国内外へ供給する拠点となっている。 | 2. 石炭の輸出拠点として発展したが、現在は石油の輸入とそれを利用した化学工業が輸出の大部分を占めている。 | 3. 輸入した紙・パルプを原料として、国内向けの木材チップを大量に生産するリサイクル産業が中心となっている。 | 4. 海外から輸入した木材チップを、加工せずにそのまま近隣の工業地帯へ転送する物流中継拠点としての役割が強い。 |
|---|---|--|---|

問2 九州地方などの温暖な地域では、夏の稲作が終わった後の水田において、冬から春にかけて小麦などが栽培されることがあります。このような土地利用の形態を説明したものとして、最も適切なものはどれか選びなさい。(2021年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|------------------------------------|
| 1. 冬の温暖な気候を活かし、同じ土地で異なる作物を育てる二毛作 | 2. 成長の早い品種を利用し、同じ土地で年に2回稲を育てる二期作 | 3. 異なる種類の作物を数年ごとに周期的に植え替える輪作 | 4. 出荷時期を遅らせるために、高冷地の涼しい気候を利用する抑制栽培 |
|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|------------------------------------|

問3 日本、マレーシア、タイ、ベトナムの1人当たり国内総生産 (GDP) を比較した統計において、日本の数値は東南アジアの諸国に比べて非常に高くなっています。このような経済格差がある中で、日本の製造業がベトナムやタイなどに工場などの生産拠点を移転させる主な目的として、最も適切なものはどれですか。(2019年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|--|---|
| 1. 現地の労働者を安い賃金で雇用し、製品の生産コストを抑えるため | 2. 現地の技術水準が日本よりも極めて高いため、高度な技術を逆輸入するため | 3. 東南アジア諸国の市場がすでに飽和しており、新たな販売先を日本国内に限定するため | 4. 現地の1人当たりGDPが高いため、高価なブランド製品を大量に販売するため |
|-----------------------------------|---------------------------------------|--|---|

問4 日本の人口構成の歴史的な変化において、1920年ごろに見られた「底辺が非常に広く、子供の数が多いう富士山のような形」から、2015年ごろの「底辺が狭まり、高齢層の割合が高い、口のすぼまったつぼのような形」へと推移した社会的な状況を何と呼びますか。(2021年 沖縄公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|------------|--------|----------|
| 1. 少子高齢化 | 2. ドーナツ化現象 | 3. 過疎化 | 4. 情報化社会 |
|----------|------------|--------|----------|

問5 日本の多くの地方自治体では、地域の再生を目指す取り組みの中で、若者が働きたいと考えるような業種の企業を積極的に誘致する施策を行っています。このような施策を行う主な目的として最も適切な説明はどれですか。(2016年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 地域内での雇用を創出し、若者の県内などへの定着を図ることで、地域の活性化につなげることに。 | 2. 増加する高齢層の生活を支えるために、介護サービスに特化した企業のみを誘致して福祉を充実させること。 | 3. 県外からの観光客を一時的に増やすために、宿泊施設やレジャー施設の短期的な利用を促進すること。 | 4. 都市部からの企業移転を制限することで、地域の伝統的な産業だけを保護し、若者の就農を強制すること。 |
|--|--|---|---|

問6 日本の主要な工業地帯・地域の中で、年間の工業出荷額が最も大きく、その内訳において自動車などの輸送用機械が占める割合が約4割を超えている工業地帯を選びなさい。(2017年 沖縄公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 中京工業地帯 | 2. 京浜工業地帯 | 3. 阪神工業地帯 | 4. 北九州工業地帯 |
|-----------|-----------|-----------|------------|

問7 千葉県の東京湾沿岸に広がる工業地域において、製造品出荷額の品目別割合を見ると、化学工業が約四十一パーセントと最も高く、次いで金属工業が約二十パーセント、食料品が約十五パーセントとなっています。このように、石油化学コンビナートが集中し、重化学工業主導の構成となっている工業地域の名称を答えなさい。(2022年 山口公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 京葉工業地域 | 2. 京浜工業地帯 | 3. 阪神工業地帯 | 4. 瀬戸内工業地域 |
|-----------|-----------|-----------|------------|

問8 都市部における人口移動と昼夜間人口比率の関係について述べた文として、地理学的な背景を踏まえた正しいものはどれですか。(2026年 山形公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 東京都心部などの中心業務地区では、オフィスや学校が集積しているため、夜間人口よりも昼間人口の方が大幅に多くなる。 | 2. ドーナツ化現象が進むと、郊外の住宅地では昼間人口が夜間人口を上回り、昼夜間人口比率が高くなる傾向がある。 | 3. 地方公共団体が過疎対策として工場を誘致した場合、その地域の夜間人口が急増するため、昼夜間人口比率は低下する。 | 4. 昼夜間人口比率が100%ちょうどである地域は、その地域内での就業・就学が完結しており、人口の移動が全く存在しないことを意味する。 |
|---|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 広大な森林資源を背景とした製紙業が発達しており、不足する原料を海外から補い、製品を国内外へ供給する拠点となっている。	苫小牧市は、背後の豊かな森林資源と大量の水、そして港湾機能を活かして製紙業が発展しました。現在では国内の資源だけでは足りないため、統計にある通り、海外から木材チップを輸入し、それを工場で紙・パルプに加工して輸出するという「加工貿易」の形をとっています。単なる物流拠点ではなく、製造と輸出入が結びついているのが特徴です。
問2	答え 1 冬の温暖な気候を活かし、同じ土地で異なる作物を育てる二毛作	九州地方の農業について記された資料において、冬でも温暖な気候を利用して稲作の後に小麦が栽培されている状況は「二毛作」に該当します。水田を1年中有効活用する工夫であり、米以外の作物を組み合わせる点が特徴です。
問3	答え 1 現地の労働者を安い賃金で雇用し、製品の生産コストを抑えるため	1人当たり国内総生産（GDP）の数値は、その国の経済水準や物価、賃金水準を反映する指標となります。日本に比べてこの数値が低い東南アジアの国々では、日本国内よりも低い賃金で労働者を雇用することが可能です。企業は、国際的な価格競争に勝つために、人件費などのコストが安い地域へ生産拠点を移す「産業の国際分業」を進めてきました。
問4	答え 1 少子高齢化	出生率が低下して子供の数が減る「少子化」と、平均寿命が延びて全人口に占める高齢者の割合が高まる「高齢化」が同時に進む現象を指します。1920年代は多産多死の「富士山型」でしたが、現代は出生率の低下によってピラミッドの底辺が狭い「つぼ型」へと変化しています。
問5	答え 1 地域内での雇用を創出し、若者の県内などへの定着を図ることで、地域の活性化につなげること。	地方における人口減少や過疎化の課題を解決するためには、若者がその土地に留まって生活できる経済的基盤が必要です。若者のニーズに合った業種の企業を誘致し、地域内で安定した雇用を確保することは、進学や就職を機に都市部へ流出してしまうのを防ぎ、将来にわたって地域社会を維持・再生させるための重要な手段となります。
問6	答え 1 中京工業地帯	愛知県、三重県、岐阜県にまたがるこの工業地帯は、豊田市を中心とした自動車産業が極めて盛んです。日本の工業出荷額の合計において長年1位を維持しており、出荷額の約42.4%を輸送用機械が占めるといふ、特定の産業に強い特化が見られるのが最大の特徴です。
問7	答え 1 京葉工業地域	千葉県臨海部に位置するこの工業地域は、大規模な埋め立て地に石油化学コンビナートや製鉄所が建設されたことで発展しました。全国の主な工業地域・地帯の中でも、化学工業の出荷額割合が際立って高いことが最大の特徴です。これに対し、隣接する京浜工業地帯は出版・印刷や機械工業の割合が高く、阪神工業地帯は金属や機械のほか、古くからの中小工場による多様な産業が混在しているという違いがあります。
問8	答え 1 東京都心部などの中心業務地区では、オフィスや学校が集積しているため、夜間人口よりも昼間人口の方が大幅に多くなる。	都市の中心部では、商業施設や企業のオフィス、学校などの機能が集中する一方で、地価の高騰により居住者が郊外へ移る傾向があります。その結果、周辺の「ベッドタウン」から多くの通勤・通学者が流入し、昼間人口が夜間人口を大きく上回るため、昼夜間人口比率は100%を大きく超えることとなります。反対に、郊外の住宅地では比率が100%を下回るのが一般的です。